

序

生命リズムと数式を結び付けた A. Winfree の先駆的研究から 40 年が過ぎた現在、生命リズムの分子生物学的理解は急速な進歩を見せており、新しい発見のひとつひとつがいずれも刺激的である。一方、数式の中のリズムは、生命リズムという具体像を離れた抽象的な場で、その理論基盤を強固に鍛え上げてきた。さらに工学分野では、ロボットに 生命的なリズムを持たせることに成功しつつある。これら三分野のいずれにおいても日本の貢献は絶大である。しかしながら、この国内ですら三者は互いをほとんど認知していない。数理分野のリズム研究は、応用分野を求めて長年さまよい続けている。一方、生物分野では、数理側のもたらす斬新な観点を必要としている。また、工学分野は、生物と数理の両分野での知見を融合させなければならない。

まずは一つの場に来ることから始めよう。この研究会は、生命のリズムをキーワードにして、生物学、工学、そして数理科学分野の交流を作ることが目的とし、ここから世界への発信を目指す。